



Japan Foundation for  
Regional Art-Activities

# 地域創造レター

2月号—No.345  
2024.1.25  
(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【鼈甲色(べっこういろ)】鼈甲のような黄褐色。

鼈甲はウミガメの一種であるタイマイの甲羅の加工品のこと。全体に黒っぽい「黒甲」、黒色と銚色が混ざった「茨布(ばらふ)」、透き通った銚色の「白甲」という大きく分けて3種類があり、色名では白甲のような黄褐色を指す。漢字検定1級に指定されている25画の「鼈」はスッポンの意味。ちなみに漢字検定1級の最多画数は鹿を3つ重ねた「麤」の33画。さて、何と読むでしょう。

## ●目次 / contents

今月のニュース..... 2

令和5年度「リージョナルシアター事業」

財団からのお知らせ..... 4

「公共ホール音楽活性化事業(導入プログラム)」令和7・8年度登録アーティスト募集 / 令和5年度調査研究事業について

今月の情報..... 5

地域通信 / アーツセンター情報

制作基礎知識シリーズ Vol.53..... 10

国立アトリサーチセンター

今月のレポート..... 12

岐阜県岐阜市 サラマンカホール・プロデュース・オペラ  
モーツァルト作曲『魔笛』

発行元：一般財団法人地域創造  
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11  
オリックス赤坂2丁目ビル 9F  
Tel. 03-5573-4093 Fax. 03-5573-4060  
URL: <https://www.jafra.or.jp/>

# 京都では高齢者を対象にしたワークショップを実施

令和5年度  
リージョナルシアター事業



写真:ワークショップの様子  
1・2:いどばたサロン(岡崎集会所)  
3:左京老人福祉センター  
4:ともつくカフェ(クリエイティブハウスF邸)

- 令和5年度リージョナルシアター事業  
(実施団体/派遣アーティスト)
- 青森県八戸市(株式会社アート&コミュニティ/ごまのはえ)
  - 茨城県日立市(公益財団法人日立市民科学文化財団/福田修志)
  - 茨城県茨城町(茨城町/有門正太郎)
  - 東京都狛江市(狛江市/田上豊)
  - 京都府京都市(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団/多田淳之介)

○アドバイザー

- 内藤裕敬(劇作家・演出家、南河内万歳一座座長)
- 岩崎正裕(劇作家・演出家、劇団太陽族代表)

○問い合わせ

芸術環境部 粟林・石本  
Tel. 03-5573-4124

\*NPO法人地域共生開発機構ともつく健康な人はもちろん、障がいのある方や高齢者など、すべての人たちが地域社会で力を発揮し、役割を担いながら生涯現役でいきいきと共生していくことを支援するNPO。地域の交流の場として個人から提供された邸宅で毎月第1・3日曜日に「ともつくカフェ」を開催。「ともつく」は「ともにつくろう」の略。

地域創造では、公共ホール職員等の企画・制作能力の向上と創造性豊かな地域づくりに資することを目的として、演劇の演出家などのアーティストを公立ホールに派遣し、ホール職員等と共に演劇の手法を使った地域でのワークショップなどを実施するリージョナルシアター事業を行っています。今年度は5団体が参加し、まちの規模もミッションもさまざまな中で知恵を出し合いながら事業を企画・実施しました。今回は京都市での取り組みをご紹介します。

事業を実施したのは、今年度の地域創造大賞(総務大臣賞)を受賞したロームシアター京都(指定管理者:公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)です。右頁のとおり、派遣アーティストと実施団体の担当者が集まる全体研修会と現地リサーチを経て、8月6日・7日と新年1月8日・9日の2回にわたって派遣アーティストとの事業が実施されました。

派遣アーティストは演出家の多田淳之介さんで、ロームシアター京都の事業としては初めて高齢者対象のアウトリーチ事業が行われました。1回目はNPO法人地域共生開発機構とも

つく<sup>(\*)</sup>が実施している「ともつくカフェ」と「左京老人福祉センター」、2回目はこの2カ所に加えてロームシアター京都が立地する岡崎学区の社会福祉協議会が開催する「いどばたサロン」(65歳以上を対象とした介護予防事業)にも出かけました(1回目は昨年のレター10月号参照)。

2回目のともつくには1回目の経験者を含む9人の高齢者が参加。多田さんは気心の知れた俳優の佐山和泉さん、大川潤子さんをアシスタントとして伴い、「普段とルールを変えると脳が活性化します。脳トレです」と言いながら、後出しジャンケン(後出してジャンケンで負ける)やジェスチャーだけで同じ血液型に分かれるゲームなどでウォームアップ。ジェスチャーなのに血液型が引き金になっておしゃべりが止まらなくなるなど、高齢者パワーが炸裂。演劇のワークでは、「もう一度行きたい場所」をテーマにグループに分かれて思い出を語り合い、そこに行った時の状況を寸劇で表現しました。「57歳で運転免許を取得してはじめて行った天橋立」など、行った場所からそれぞれの人生の片鱗が浮かび上がる時間になりました。

いきいきシニアのための各種講座が1日中間

催されている左京老人福祉センターでは、「あなたも名優！演劇体験」と題してワークショップを行いました。多田さんが『走れメロス』について説明し、王に死刑を宣告されたメロスが友人を人質にして3日の猶予を願うシーンを佐山さんと大川さんが実演。多田さんが「王は孤独だから膝を抱えて離れて座ってみよう」と演出すると、表現が大きく変化。それを目の当たりにした参加者たちがグループに分かれ、自由な解釈で王とメロスのシーンを創作・発表しました。家来の口車によって死刑を宣告してしまった気弱な王が登場するなど、キャラクターに自然と参加者の性格が乗り移っていました。

「いどばたサロン」では、「20歳の頃の自分」と向き合うワークが行われました。15人の参加者がグループに分かれて20歳の頃の思い出を語り合い、その頃の自分にかかる神様のセリフを考えてもらいました。佐山さんと大川さんが神様に扮し、名前を呼びながら「本当によく頑張ったな、褒めてやるぞ」と声をかけると、思わず胸が熱くなりました。



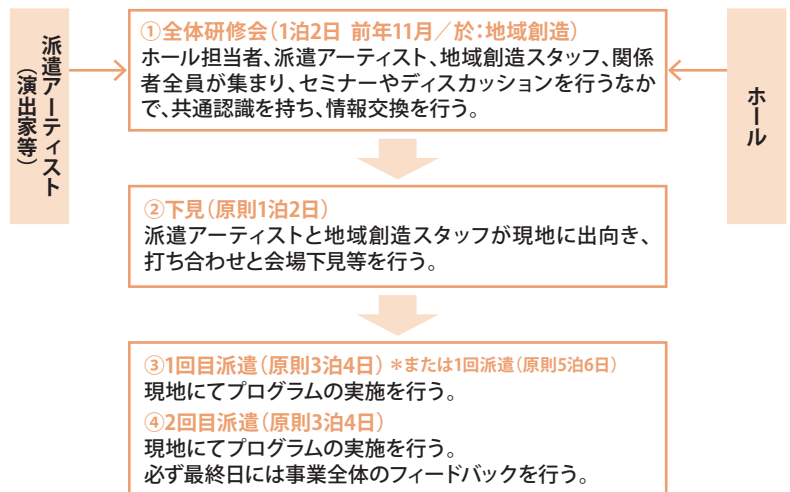
学生劇団での経験もあるロームシアター京都の担当者・柘谷雄一郎さんは、「これまでアウトリーチは行ったことがなく、また、子どもの事業はいろいろやっているが、高齢者への取り組みがなかった。この事業でその経験値を増やしたいと思った。アウトリーチ先の心当たりがなく、ひとくちに高齢者といっても活動できる度合いがそれぞれ違うこともよくわかっていなかった。唯一、繋がりがあったともつく代表の河本歩美さんに相談し、アクティブシニアを対象にして、まずはともづくりに集まってくる好奇心溢れる方たちのところに出かけた。多田さんはワークショップで高齢者の方たちのいろいろな声を拾っていて、そのプロセスをみんなで共有するのを見ているのが楽しかった。これをどう発展させていくかを考えてみたいと思った」と話していました。

受け入れ先の河本さんは、「ワークショップでは思いもかけない表情や声が出ていて、解放された部分があったのではないかな。初めてと

もつくに来た方も早々にみなさんと馴染んでいて、演劇が関係づくりに有効だと感じた。お年寄りというカテゴリーに入れられると個人を出せないが、ご自身のことをとても語っていらした。これに限らず、ご自身らしくできることがあるというのを生きる中でもっと表現してもらえようになればと考えている」と振り返っていました。

多田さんは、「ともづくりの参加者でも年齢に20歳ぐらい開きがあって、高齢者とひとくくりにはできないのを改めて実感した。こういう場だから話せることもあり、仮の目的や話すテーマをうまく設定すると会話が活性化するし、演劇を高齢者のコミュニティでやる意義はある」と確かな手応えを感じていました。また、今回は実地研修として令和6年度からの新規派遣アーティストである越智良江さんがアシスタントとして参加。「高齢者とのワークショップは初めてだったが、昔のことを聞くことで親近感が生まれて、多幸感に包まれた時間になった。私は2〜3カ月かけて市民と作品をつくってきたので、短時間のワークショップは焦りしかなかった。多田さんのゆるく運ぶ感じや、少しでも発表があると満足度が上がる感じは勉強になった」と刺激を受けていました。

### リージョナルシアター事業の流れ



## ▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

## 財団からのお知らせ

### ●「公共ホール音楽活性化事業(導入プログラム)」令和7・8年度登録アーティスト募集

この事業は市町村等の公共ホールに、オーディションで選ばれた演奏家とコンサートの企画制作経験が豊富なコーディネーターを派遣し、地方公共団体等と共催でコンサートとアウトリーチをはじめとする演奏交流プログラムを実施する事業です。令和7・8年度の事業実施に向けて登録アーティストを募集します。事業の趣旨にご賛同いただける新進アーティストのご応募をお待ちしております。また、公立文化施設等の担当者の方々には、地域で活躍するアーティストをご紹介いただければ幸いです。

#### ◎募集ジャンル

ピアノ、弦楽器(ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、クラシックギター、ハーブ)、管楽器(フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、サクソフォン、ホルン、トランペット、トロンボーン、ユーフォニアム、チューバ)、声楽(ソプラノ、メゾソプラノ、アルト、テノール、バリトン、バス)、打楽器(マリンバ含む)、クロマティックハーモニカ、クラシックアコーディオン

#### ◎応募条件

[ソリスト]

年齢条件(声楽以外): 2025年4月1日時点で満20歳以上35歳以下

年齢条件(声楽): 2025年4月1日時点で満20歳以上40歳以下

[アンサンブル]

編成条件: 五重奏まで

年齢条件: 平均年齢35歳以下。ただし、満20歳以上37歳以下で構成されていること(2025年4月1日時点)

#### ◎募集数

6～8名(組)程度

#### ◎審査日程

第1次選考: 書類と音源(YouTube)による予備審査

第2次選考: ライブ演奏およびトークによる本審査

[日程] 2024年6月13日(木)、14日(金)

[会場] トッパンホール

[審査員] 園田隆一郎、久元祐子、長谷川陽子、杉木峯夫、喜多弘悦、赤木舞、仕田佳経

#### ◎登録

合格者は、基本的な登録条件などについて合意した後、令和7・8年度の当事業のアーティストとして登録いたします。合格者対象の研修を2024年9月17日、18日に予定しております(参加必須)。

#### ◎応募締切

2024年4月12日(金)

#### ◎募集要項

募集要項および応募用紙は当財団ホームページに掲載しています。詳細は担当までお問い合わせください。

<https://www.jafra.or.jp/project/music/01.html>

### ●令和5年度調査研究事業「地域文化施設におけるアウトリーチ・ワークショップの成果や効果にもとづく今後の展開に関する調査研究」について

地域創造では、地域の文化芸術活動のための環境づくりについて全国的な視点から調査、分析、研究を行っています。今年度のテーマは、「地域文化施設におけるアウトリーチ・ワークショップの成果や効果にもとづく今後の展開に関する調査研究」です。

令和4年度は、自治体や公立文化施設が継続的に実施してきた教育や福祉、地域づくり等のアウトリーチ・ワークショップが個人の生活や公立文化施設の運営にどのように影響を与えてきたのか、アウトリーチに参加した児童・生徒および参加校の教員へのアンケート調査と、アウトリーチに積極的に取り組んでいる公共ホールの関係者へのグループインタビュー調査を実施し、成果や効果の検証と考察を行いました。

今年度は調査対象をアーティストやコーディネーターに広げ、アンケート調査(8月～9月)とグループインタビュー調査(9月～10月)を実施しました。

今後は令和4・5年度の調査結果に加え、令和3年度「地域と文化芸術をつなげるコーディネーター インタビューによる事例調査」も踏まえて、アウトリーチやワークショップの今後の展開等に関する提言をとりまとめることとしています。

調査結果については、後日報告書を発行予定です。発行時期や内容については、地域創造レターやホームページにてお知らせしますので、ぜひご覧ください。

●公共ホール音楽活性化事業に関する問い合わせ

芸術環境部 おんかつ事業担当

Tel. 03-5573-4078

onkatsu@jafra.or.jp

●調査研究事業に関する問い合わせ

芸術環境部 管藤

Tel. 03-5573-4066

## ▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

### 地域通信

#### ●掲載情報について

最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

#### ●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。👉マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

#### ●地域ブロック

[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川

[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知

[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知

[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

#### ●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。  
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4093  
letter@jafra.or.jp  
地域創造情報担当 林・管藤

#### ●2024年4月号情報締切

2024年2月21日(水)

#### ●2024年4月号掲載対象情報

2024年4月～6月に開催もしくは募集されるもの

#### 北海道・東北

##### ●北海道北広島市

北広島市芸術文化ホール  
〒061-1121 北広島市中央6-2-1  
Tel. 011-372-7667  
<https://www.city.kitahiroshima.hokkaido.jp/hanahall/>

##### 創作劇『久蔵と十郎～鍛を振るう侍～』

北広島市の「寒地稲作成功150年記念事業」と連携し、ホール25周年を記念する創作劇を制作。明治時代、道南以北では不可能とされていた稲作の成功までの道のりや携わった人物のその後について、隣接する恵庭市在住の任泰峰による脚本・演出と、北広島市や周辺市町から公募で集まったキャストおよびスタッフでお届けする。

[日程] 2月25日

[会場] 北広島市芸術文化ホール

##### ●岩手県盛岡市

盛岡市文化振興事業団  
〒020-0873 盛岡市松尾町3-1  
Tel. 019-622-2258 田澤優紀  
<https://www.mfca.jp/morigeki/>

##### 第9回 盛岡劇場「劇団モリオカ市民」公演 『MORIOKA CHRONICLE II 盛岡バスセンターものがたり』

地元の劇作家や演劇人、一般公募のキャスト・スタッフによる「劇団モリオカ市民」の第9回公演。第7回との共通テーマで、盛岡市民に親しまれている場所に集まる記憶や歴史に着目する「MORIOKA CHRONICLE」の第2弾。2022年10月にリニューアルオープンした「盛岡バスセンター」に着目し、脚本のベースとなる旧バスセンターにまつわるエピソードを一般公募することで、より地域における演劇文化の浸透、振興を目指す。

[日程] 3月2日、3日

[会場] 盛岡劇場

#### 関東

##### ●茨城県水戸市

水戸市民会館  
〒310-0026 水戸市泉町1-7-1  
Tel. 029-350-6060 和久井  
<https://www.mito-hall.jp/>

##### 水戸市民会館 プラスミュージックの日 with ぱんだウインドオーケストラ

茨城県出身のサクソフォン奏者・上野耕平がコンサートマスターを務める、東京藝術大学の有志で創立されたぱんだウインドオーケストラのコンサート。東京交響楽団正指揮者の原田慶太楼の指揮でソプラノサクソフォンとウインドアンサンブルのための協奏曲などを演奏する。当日は、公募で選ばれた水戸市内の高校吹奏楽部が共演する合同プログラムも実施。

[日程] 2月25日

[会場] 水戸市民会館

##### ●さいたま市

埼玉県芸術文化振興財団  
〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1  
Tel. 048-858-5500 請川幸子  
<https://www.saf.or.jp/arthall/>

##### 埼玉回遊(特大号!) ～風と土地のロマンス

彩の国さいたま芸術劇場休館を機に、芸術監督で振付家・ダンサーの近藤良平が、県内25カ所を巡り、多彩な文化を探索するプロジェクト「埼玉回遊」。回遊先で出会った県内の伝統文化や農業や産業の営みからインスピレーションを得た舞台を、劇場



全国で3地域にしか残っていない伝統芸能「車人形」を保存する、竹間沢車人形保存会(三芳町) 撮影:湯越慶太

のリニューアルオープン記念公演として上演。埼玉のさまざまな場所や文化を、時間や場所を超えて感じることができる。

[日程] 3月9日、10日

[会場] 彩の国さいたま芸術劇場

##### ●埼玉県富士見市

キラリ財団  
〒354-0021 富士見市大字鶴馬1803-1  
Tel. 049-268-7788 中出千尋  
<https://www.kirari-fujimi.com/>

##### キラリふじみ・ダンスカフェ スペシャルコラボレーション 『幻想曲II』

キラリふじみ芸術監督・白神ももこによる、気軽にダンスを楽しめるプログラム「キラリふじみ・ダンスカフェ」の特別編。今回は2020年に上演した『幻想曲』を再演。公募で集まった“何かをつくりたい人”たちが、ダンサーやスタッフと事前のワークショップを通してそれぞれの自由な発想でつくり上げる。公演は2日間の第1～第4楽章で1つの作品を構成。楽章ごとに変わり続ける舞台をどこで観るかは、観客自身に委ねられる。

[日程] 2月11日、12日

[会場] 富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ

##### ●千葉市

千葉市美術館  
〒260-0013 千葉市中央区中央3-10-8  
Tel. 043-221-2311 田辺・染谷  
<https://www.ccma-net.jp/>

##### サムライ、浮世絵師になる! 鳥文斎栄之展

旗本出身ながら美人画で人気を博した異色の浮世絵師・鳥文斎栄之の画業を総覧する世界初の展覧会。明治時代、栄之は喜多川歌麿に次いで人気が高く、上流階級や知識人などから愛され名声を得ていたが、多くの作

品が海外に流出しており国内での認知度は低い。本展では、ボストン美術館から15点、大英博物館から14点を含む錦絵・肉筆画約160点を前期・後期に分けて展示する。

[日程] 1月6日～3月3日

[会場] 千葉市美術館

#### ●東京都渋谷区

渋谷区文化総合センター大和田  
〒150-0031 渋谷区桜丘町23-21

Tel. 03-3464-3252 瀬川美保

<https://shibu-cul.jp/>

#### Live Performance SHIBUYA

##### 「森山開次 春の祭典2024」

世界で活躍するダンサー・森山開次(演出・振付・出演)が、ストラヴィンスキーのバレエ音楽『春の祭典』(4手ピアノ版)に挑む創作舞台。この難曲を演奏するピアニストは、再び森山と共演する實川風と2019年ロン＝ティポー・クレスパン国際コンクール優勝者の三浦謙司。2018年の初演から6年の月日を経て、新たなメンバーによる新たな解釈の下で、2024年版として再演する。

[日程] 3月2日

[会場] 渋谷区文化総合センター大和田 さくらホール

#### ●東京都文京区

文京シビックホール

〒112-0003 文京区春日1-16-21

Tel. 03-5803-1103 中根文

<https://www.b-academy.jp/hall/>

#### 区民参加演劇公演

##### 「文京スクラップBOOK『神様へルプ!編』『また逢えたね…編』」

例年実施している区民参加演劇公演。今年は構成・演出に舞台演出家の倉迫康史を迎える。公募オーディションで選ばれた14人が、文京の街歩きや台本創作などのワークショップを経て、物語となる題材を見つけ、

それぞれが書いた短い台本をスクラップブックのように構成。文京区の土地神と高校生を題材にした2つのストーリーが織り成すファンタジー作品として上演。

[日程] 2月25日

[会場] 文京シビックホール

#### ●横浜市

横浜みなとみらいホール

〒220-0012 横浜市内西区みなとみらい2-3-6

Tel. 045-682-2020 白川美帆

<https://yokohama-minatomiraihall.jp/>

#### Just Composed 2024 in Yokohama—現代作曲家シリーズ—

気鋭の日本人作曲家への新作委嘱と過去の委嘱作品の再演を軸とするシリーズ企画。25回目の今回は「チェロとエレクトロニクスによる技巧と音響の探求」をテーマに、山澤慧(チェロ)と有馬純寿(エレクトロニクス)を迎え、二人だからこそ実現可能なプログラムを実施。また、今回の委嘱作曲家に選ばれた北爪裕道が、自らエレクトロニクスを担当し、新作を世界初演する。

[日程] 3月2日

[会場] 横浜みなとみらいホール

#### 北陸・中部

#### ●石川県金沢市

金沢芸術創造財団

〒920-0999 金沢市柿木島1-1  
金沢市第二本庁舎

Tel. 076-223-9898 木下梢

<https://www.kanazawa-arts.or.jp/>

#### 第2回市民アンサンブルの日

アーツカウンシル金沢が主催するクラシックを中心としたアンサンブルコンサート。2回目となる今回は、小学生から大人まで総勢12組83人の市民演奏家が出演し、入場無料で誰でも気軽に音楽を聞くことができる。全4部構成で、管弦楽や声楽のほか、二胡とマリンバを加えた九重奏、

津軽三味線やライアーの合奏など、多彩なアンサンブルが織り成す音色を楽しめる1日となっている。

[日程] 2月11日

[会場] 金沢市文化ホール

#### ●長野県上田市

サントミュージゼ(上田市交流文化芸術センター)

〒386-0025 上田市天神

3-15-15

Tel. 0268-27-2000 横尾慎二

<https://www.santomyuze.com/>

#### 犀の角×百景社 藤村プロジェクト2021-23「Before the Dawn 第二部～島崎藤村『夜明け前』を巡る旅～」

サントミュージゼと、上田市海野町商店街の民間文化施設「犀の角」が連携し、劇場と地域が繋がることを目指して2020年度から実施してきた「まちとつながるプロジェクト」。本年度は、信州にゆかりの深い文豪・島崎藤村が木曾路を舞台に書いた長編小説『夜明け前』を題材に、犀の角と劇団「百景社」が3年かけて創作してきた作品を集大成として上演する。

[日程] 2月2日～4日

[会場] サントミュージゼ(上田市交流文化芸術センター)

#### ●長野県伊那市

長野県伊那文化会館

〒396-0026 伊那市西町5776

Tel. 0265-73-8822 川上真奈美

<https://inabun.jp/>

#### 第十五回 信州農村歌舞伎祭

南信地域に古くから根付く地芝居から、毎年3団体が一堂に会する歌舞伎祭。栈敷席や「おひねり」を投げたり、お弁当を食べながら観劇できるなど、地芝居の雰囲気そのままに体感することができる。15回目の今年は田立歌舞伎保存会(南木曾町)、大鹿歌舞伎保存会(大鹿村)、

下條歌舞伎保存会(下條村)の3団体が出演。

[日程] 2月25日

[会場] 長野県伊那文化会館

#### ●岐阜県可児市

可児市文化芸術振興財団

〒509-0203 可児市下恵土

3433-139

Tel. 0574-60-3311 松浦正和

<https://www.kpac.or.jp/ala/>

#### 大型市民参加事業第13弾 オーケストラで踊ろう!「裁&判」

2008年度から続く、ミュージカル、コンテンポラリーダンス、演劇を市民とつくり上げるプロジェクトの13回目。今回は、ダンサー・振付家の康本雅子を振付・演出に迎え、小学4年生から80歳までの50人の市民ダンサーと10人の市民サポーターが、「裁判」をテーマに壮大なステージをつくり上げる。演奏は、約60名で構成される地元オーケストラの可児交響楽団。ドヴォルザーク作曲の交響曲第8番などで共演する。

[日程] 3月2日、3日

[会場] 可児市文化創造センターala

#### ●静岡県藤枝市

藤枝市

〒426-8722 藤枝市岡出山1-11-1

Tel. 054-643-3036 藁科幸絵

[https://www.city.fujieda.shizuoka.jp/soshiki/sports\\_bunka/kaidobunka/event/22569.html#2023jyoron04](https://www.city.fujieda.shizuoka.jp/soshiki/sports_bunka/kaidobunka/event/22569.html#2023jyoron04)

#### びじゅつじょろん6 六感芸術祭

藤枝市ゆかりのアーティストによる美術体験プログラムと現代美術の展覧会。6回目となる今年は、より体験にスポットを当てた「六感芸術祭」としてリニューアル。五感だけでなく、直感やひらめきで美術をより楽しんでもらおうと、23種類の子ども向けのワークショップや展覧会、芸

## ▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

術家による公開制作が行われる。期間中は展示会場外に人気の飲食店によるマルシェ、美術関連のワークショップや物販も集結する。

[日程] 2月23日～25日

[会場] 藤枝市民会館ほか

### ●名古屋市

名古屋市文化振興事業団  
〒460-0008 名古屋市中区栄3-18-1

Tel. 052-249-9385 宮田健秀  
<http://www.bunka758.or.jp>

#### 名古屋市文化振興事業団設立40周年記念オリジナルミュージカル『きみのあした』

名古屋市文化振興事業団では、コロナ禍で不安な日々を送る市民に向けた応援ソングとして、2020年に『きみのあした』(作曲: 藤田麻衣子)を制作。映像配信や合唱版楽譜の学校配付などの取り組みを行ってきた。今回は、この楽曲を元にしたミュージカルを制作・上演。上演台本・演出に落石明憲、音楽監督・指揮に井村誠貴を迎え、コロナ禍を経て大人になった若者たちが夢への一歩を踏み出す、再生の物語をお届けする。

[日程] 2月16日～18日

[会場] 名古屋市芸術創造センター

### ●愛知県豊橋市

豊橋文化振興財団  
〒440-0887 豊橋市西小田原町123

Tel. 0532-39-3090 吉川剛史  
<https://toyohashi-at.jp/>

#### 市民と創造する演劇『地を渡る舟—1945/アチック・ミュージアムと記述者たち—』

公募で選ばれた市民出演者と市民スタッフ、プロスタッフで演劇作品を創作する「市民と創造する演劇」シリーズ。10回目となる今年、てがみ座主宰・劇作家

の長田育恵の作品を、扇田拓也の演出、棚川寛子の音楽で上演する。また鑑賞サポートとして、視覚に障がいのあるお客様に向けた舞台説明会も開催。

[日程] 3月2日、3日

[会場] 穂の国とよはし芸術劇場PLAT

### 近畿

#### ●三重県津市

三重県文化会館  
〒514-0061 津市一身田上津部田1234

Tel. 059-233-1100 堤佳奈  
<https://www.center-mie.or.jp/oibokenbun/>

#### 岡山芸術創造劇場×OiBokke Shi×三重県文化会館 老いのプレーパーク 岡山・三重ツアー

OiBokkeShi主宰の菅原直樹指導の下、2018年に三重県のシニアや介護関係者、認知症当事者によって結成され、演劇を用いて老いの明るい未来を模索し続けている「老いのプレーパーク」。今年度は、岡山版も結成され、岡山と三重のシニアにより2都市上演ツアーを行う。廃校を再利用した老人ホームを舞台にした『老人ハイスクール』、認知症のおばあちゃんが見ている世界を冒険譚にした新作『いごゆかん』の2本を上演。

[日程] 3月9日、10日

[会場] 三重県文化会館



老いのプレーパーク「あたらしい生活シニター」(2022年) 撮影:松原豊

#### ●滋賀県栗東市

栗東芸術文化会館さきら  
〒520-3031 栗東市糺2-1-28

Tel. 077-551-1455 近藤美緒  
<https://www.sakira-ritto.net/>

#### プロダクションさきらvol.7 成果発表公演「おとなも子どももたのしめるコンサート～森の動物たちが教えてくれる歌～」

企画に携わるプロデューサーの仕事体験しながらコンサート制作の過程が学べる講座「プロダクションさきら」。制作に興味のある小学生から大学生までの9人の受講生が、レセプション体験や出演者との相談、広報企画などの講義を経て、実際にコンサートを一からつくり上げていく。7回目となる今回は、「おとなも子どももたのしめる」をコンセプトとした室内楽コンサートを実施する。

[日程] 2月17日

[会場] 栗東芸術文化会館さきら小ホール

#### ●大阪府吹田市

吹田市文化振興事業団  
〒564-0041 吹田市泉町2-29-1  
Tel. 06-6380-2221 宮本理絵  
<https://maytheater.jp/>

#### SHOW劇場 番外編vol.1 ひとり芝居『怪人二十面相・伝』

関西演劇界の活性化を目的として、関西の演劇人をメインとした現代演劇のプロデュース公演を実施する「SHOW劇場」シリーズ。16回目となる今回は番外編として、シリーズ初のひとり芝居を上演。関西を拠点に活躍する大熊隆太郎(劇団壱劇屋)が演出、うえだひろし(リリパットアーミーII)出演で、劇作家・北村想の名作『怪人二十面相・伝』に挑戦する。

[日程] 2月2日～4日

[会場] 吹田市文化会館メイシアター

#### ●大阪府八尾市

八尾市文化振興事業団  
〒581-0803 八尾市光町2-40

Tel. 072-924-5111 井上恵理子  
<https://prismhall.jp/>

#### ライブペインティング×ダンス×音楽『夢幻の舞 望郷のうた』

奈良時代の歴史にその名を刻んだ八尾ゆかりの僧侶・道鏡とまちの歴史を、舞台いっぱいに投影されるライブペインティングとダンス、音楽とを融合させて描く公演。演出・振付・出演の北村成美、ライブペインティングの中山晃子たちと、年齢や国籍、障がいの有無にかかわらず公募で集まった市民出演者がダンスとコーラスで共演。子どもの鑑賞デビューを応援するため、市内在住または在学中の子どもたちとその保護者を無料招待する。

[日程] 2月24日、25日

[会場] 八尾市文化会館プリズムホール



市民向けの体験ワークショップの様子

#### ●兵庫県丹波篠山市

丹波篠山市民ミュージカル実行委員会

〒669-2332 丹波篠山市北新町41(田園交響ホール内)

Tel. 079-552-3600 小林純一  
<https://www.city.tambasayasama.lg.jp/denen/>

#### 丹波篠山市民ミュージカル第11弾『ノートル=ダム・ド・パリ～愛と宿命の物語～』

2001年以来、ほぼ隔年で上演してきた丹波篠山市民ミュージカルの第11弾。田園交響ホールのボランティアスタッフ集団「ステージオペレータークラブ」を中心に、出演者・スタッフが協力して制作している。15世紀のパリ

を舞台に、人間の強さと弱さ、破滅と救済、情念と理性の葛藤が渦巻く壮大なドラマを、オリジナルの演出と脚本で展開。大人だけでなく子どもたちの心にも刻まれる作品となっている。

[日程] 2月11日、12日

[会場] 田園交響ホール

#### 中国・四国

##### ● 島根県益田市

島根県立石見美術館

〒698-0022 益田市有明町5-15

島根県芸術文化センター「グラントワ」内

Tel. 0856-31-1860

<https://www.grandtoit.jp/>

##### 企画展「石見特別版 永田コレクションの全貌公開(一章)

##### 北斎―「春朗期」・「宗理期」編

島根県津和野町出身の北斎研究者・永田生慈より島根県へ寄贈された北斎とその門人の作品・資料2,398件の中から、北斎が浮世絵界にデビューした20歳から45歳頃までの「春朗期」・「宗理期」と呼ばれる若き日の作品に焦点を当てた展覧会。北斎の生涯の中でも現存数や資料が少なく、謎多き時期とされている両期の作品を中心に約280点を公開。県外不出の永田コレクションから北斎の知られざる若き日の研鑽と挑戦の軌跡をたどる。

[日程] 2023年12月23日～2月12日

[会場] 島根県立石見美術館

##### ● 山口県山口市

山口情報芸術センター[YCAM]

〒753-0075 山口市中国町7-7

Tel. 083-901-2222 前原美織

<https://www.ycam.jp/>

##### Afternote 山口市 映画館の歴史

現在、単独の映画館として運営されている施設のない山口市において、地域に眠る資料や200人を超える関係者らのインタビューを通じて、かつて存在し

た映画館の歴史や映画館にまつわる地域の記憶を掘り下げながら映像メディアの変遷を振り返る。また、今回の展示のためにアーティストの志村信裕が制作した映像作品『Afternote』を公開する。関連イベントも多数開催。

[日程] 2023年11月25日～3月17日

[会場] 山口情報芸術センター[YCAM]

##### ● 香川県丸亀市

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

〒763-0022 丸亀市浜町80-1

Tel. 0877-24-7755 松村円

<https://www.mimoca.org/>

##### 回復する

以前と同じに戻る事ができない状況になった後でも、日々を続けなければならない。そのためには、社会や自己のあり方の問い直し、他者との関わり、時間の経過など、地道な手段が推進力になり得る。本展では、そうした力に目を向け、どのように自己を回復し、進んでいくことができるか。大岩オスカル、畠山直哉ら7名の作家による作品を通して、弱った心身を受容しながら生きる術を考える契機となることを試みる。

[日程] 2023年12月23日～3月10日

[会場] 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

#### 九州・沖縄

##### ● 熊本市

熊本市現代美術館

〒860-0845 熊本市中央区上通町2-3

Tel. 096-278-7500 坂本顕子

<https://www.camk.jp/>

##### NOT PERMANENT BUT PERMANENT—東儀一郎が見た昭和の坂本

令和2年7月豪雨による宅地かさ上げなど、今まさに大きく姿を変えようとする八代市坂本町。

高度経済成長期に町の一大産業であった製紙工場のもたらした活況や、度重なる水害に向き合いながらも球磨川と共に生きる人々の豊かな暮らしなど、地域に密着した風景を撮り続けたアマチュアカメラマン・東儀一郎(1917～2001)のネガやプリントを、現代に蘇らせるアーカイブ写真展。

[日程] 2023年12月23日～2月25日

[会場] 熊本市現代美術館



葉木駅前。大漁旗を振って団体のカヌーの応援(1963年)

##### ● 宮崎県高鍋町

高鍋町美術館

〒884-0003 児湯郡高鍋町大字南高鍋6916-1

Tel. 0983-23-8887 青井美保

<https://www.town.takanabe.lg.jp/museum/>

##### 河野扶展 向うからやってくるもの—一作意を捨てて

宮崎県出身の画家・河野扶の初期から晩年までをたどる、九州では初めて開催される回顧展。大学を卒業後上京し、2002年に亡くなるまで東京を拠点としていた河野の作品は九州にほとんど残っていないことから、作家の遺族と東御市梅野記念絵画館(長野県)の協力により本展が実現。関連イベントとして、梅野記念絵画館館長による講演会や、小学生を対象としたワークショップも開催される。

[日程] 2月3日～3月3日

[会場] 高鍋町美術館

##### ● 鹿児島県霧島市

みやまコンセール

〒899-6603 霧島市牧園町高

千穂3311-29

Tel. 0995-78-8000 峯崎幸一郎

<https://miyama-conseru.or.jp/>

##### 第14回みやまスペシャルコンサート「室内楽へおじゃったもんせ!」

県民に気軽な音楽鑑賞の機会を提供するためのミニコンサートやアウトリーチを実施する事業「みやまコンセール協力演奏家」登録アーティストの企画により、毎年実施しているコンサート。今回は、久保由香理(ファゴット)の企画で、室内楽の魅力を紹介する。また、棕鳩十の『片耳の大シカ』や奄美市の中学生がつくった文学作品をモーツァルトや奄美民謡の演奏と朗読とともにお届け。霧島市の2つの中学吹奏楽部も特別出演する。

[日程] 2月11日

[会場] 霧島国際音楽ホール

##### ● 沖縄県那覇市

那覇文化芸術劇場なはーと

〒900-0015 那覇市久茂地3-26-27

Tel. 098-861-7810

<https://www.nahart.jp/>

##### ドーナツ盤からの唄声

##### ～沖縄民謡最盛期の情熱～

ドーナツ盤が飛ぶように売れた沖縄民謡最盛期に実際にドーナツ盤のレコードをリリースした唄者が集い、知名定男のナビゲートで歌と当時の話を聴きながら沖縄民謡の歴史にふれるコンサート。沖縄民謡を担う三線の奏者が年々減少し高齢化していく今、島の文化の未来を託された子どもたちが1人でも多く民謡にふられるよう、「“沖縄民謡”ワンコイン種まきプロジェクト」として、18歳以下は500円で入場が可能。

[日程] 2月3日

[会場] 那覇文化芸術劇場なはーと



## ▼今月の情報(アーツセンター編)

新たにオープンした公立のアーツセンターを紹介します

### アーツセンター情報

#### ●北海道富良野市 富良野市複合庁舎 「ネーブルふらの」

〒076-8555 富良野市弥生町1-1

Tel. 0167-39-2300

<https://www.city.furano.hokkaido.jp/>

◎2022年9月26日オープン



老朽化した市役所と文化会館を統廃合し、災害発生時の防災拠点機能も担う新たな複合施設が整備された。愛称の「ネーブルふらの」は150を超える公募から選ばれ、英語で「へそ」を意味する「ネーブル」が、北海道の中心に位置する富良野をイメージしている。

新庁舎の西側に位置する富良野文化会館は、音響反射板を備えた516席の本格的な音楽ホールのほか、防音設備を完備しミニコンサートやダンス練習でも使用できるリハーサル室を備える。また、建物中央にある市民の交流や市民活動を支援する「Fプラザ」はサークル活動等で創作した作品展示やロビーコンサートの開催が可能で、子どもたちを育む環境づくりを目指し、木製遊具や絵本などを用意する屋内遊具施設「へそキッズランド」も併設し、世代を超えて利用しやすい地域交流の場となっている。

[オープニング事業] マティアス・パーメルト指揮 札幌交響楽団コンサート

[施設概要] サンエーホール(大ホール/516席)、リハーサル室、会議室A～Dほか

[設置・管理・運営者] 富良野市

[設計者] (株) 日建設計

#### ●神戸市 なでしこ芸術文化センター

〒651-2277 神戸市西区美賀多台1-1-1

西神中央ホール:Tel. 078-995-5638

市立西図書館:Tel. 078-991-8311

<https://www.city.kobe.lg.jp/a36708/kanko/bunka/nadeshikobunka.html>

◎2022年10月1日オープン



まちとしての魅力や利便性をさらに高めるため、神戸市では西神中央駅周辺のリノベーションを進めている。その一環として西神中央ホールと新西図書館との複合施設として整備。

西神中央ホールは「おかえりサロン」をコンセプトに、市民が愛着を持てる場所として、公演鑑賞だけでなく、表現活動を通じた人との交流や繋がりが生まれるような施設を目指している。市立西図書館は約30万冊を収蔵可能で、市内の地域図書館では最大の広さと所蔵数を誇る。ホールと図書館を繋ぐ回廊には、区画ごとに本や雑誌などの展示が可能な「アートウォール」を設置。またホールには、アートスペース(屋内)、交流広場(屋外)が隣接し、それぞれスライディングウォールを開閉することで、コンサートやマルシェなどにも利用できる。

[施設概要] 西神中央ホール:ホール(500席)、スタジオ4室、ピアノ室、カフェほか/西図書館:約300席、対面朗読室、セミナー室ほか

[設置者] 神戸市

[管理・運営者] ホール:(株) シアターワークショップ/図書館:神戸新聞・TRCグループ

[設計者] (株) 久米設計

#### ●福岡県みやま市 みやま市総合市民センター 「MIYAMAX みやまっくす」

〒835-0024 みやま市瀬高町下庄792-1

Tel. 0944-63-3333

<https://www.city.miyama.lg.jp/sp003/>

◎2022年10月1日オープン



旧瀬高公民館、旧瀬高体育センターの老朽化に伴い、体育館機能を兼ね備えた多目的ホールをはじめ、文化・芸術、健康・スポーツ、子育て支援活動に利用できる複合施設として整備。市民がさまざまな文化や芸術に親しみ、楽しむことで生活を豊かにし、また生涯学習活動やスポーツ活動、子育て支援活動といった世代間交流、地域間交流が増えることで、新たな賑わいを生み出すことを目指す。

演劇やコンサート、講演会などを開催できる最大800席の多目的ホールは、客席をすべて収納することで平土間となり、体育館としても利用が可能。また2階のトレーニングルームには、トレッドミルやエルゴメーター、筋力トレーニングマシンなど13台の機器を設置。常駐する健康運動指導士が健康増進や体力向上、減量など目的に応じてサポートしている。

[オープニング事業] 開館記念公演 人間国宝 長唄 杵屋勝国

[施設概要] 多目的ホール(約840m<sup>2</sup>、最大800席)、リハーサル室(90m<sup>2</sup>)、マルチルーム(120m<sup>2</sup>)、トレーニングルーム、キッズルーム、会議室4室ほか

[設置者] みやま市

[管理・運営者] みやま市

[設計者] (株) 日本設計

#### ●データの見方

情報は所在地の北から順に掲載しています。●で表示してあるのはアーツセンターの所在地です。以下名称、住所、電話番号、公式サイトURLを記載しています。また、基礎データとして、設置者、運営者、ホール席数など施設概要を紹介しています。

#### ●情報提供のお願い

地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター(ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含みます)の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄に掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、情報担当までご連絡ください。

#### ●情報提供先

地域創造レター担当  
Fax. 03-5573-4060  
Tel. 03-5573-4066  
letter@jafra.or.jp

# 日本のアートの持続的発展を推進する国立専門機関が誕生

制作基礎知識シリーズ Vol.53

## 国立アトリサーチセンター

講師  
永田晶子(美術ジャーナリスト)

2023年3月28日、国立アトリサーチセンター(National Center for Art Research、略称: NCAR)が独立行政法人国立美術館(逢坂恵理子理事長/以下、国立美術館)内に設立された。日本のアート振興の拠点として、アートを通して誰もが新しい価値や可能性を見出せる未来を目指す。

### ●目的と組織体制

NCAR設立の目的は、国立美術館が所管する7つの国立館<sup>(\*)1</sup>を中心に、国内外の美術館や研究機関をつなぐ事業やネットワーク構築を行い、日本の美術活動全般の底上げに寄与することだ。国の中央省庁等改革による独立行政法人化の一環で2001年に設立された国立美術館は、これまで館単位での活動が多く、7館全体の資源(収藏品、調査研究)に横申を刺して活かす連携強化が課題だった。NCARでは「アートをつなげる、深める、広げる」をキーワードにコレクションの活用促進やラーニングの拡充、国際的な情報発信に取り組み、ハブとしての国立美術館の機能強化を目指す。

NCARは独自の公開施設を持たず、東京・九段下に職員数26人のオフィスを置き、事業主体として以下の5つのグループが設置された(体制図参照)。なお、各グループを牽引するリーダーは、国立美術館などで経験を積んだベテラン学芸員や専門家が務めている。

- ①作品活用促進グループ(国内美術館との連携事業、作品の保存修復に関する情報発信)
- ②情報資源グループ(国内美術館の収藏品や

- 日本の美術家に関する情報の集約と発信)
- ③国際発信・連携グループ(海外の美術館や専門家との国際交流の推進)
- ④ラーニンググループ(プログラムの開発や鑑賞教育研修、美術館アクセシビリティの推進)
- ⑤社会連携促進グループ(企業や団体との窓口になり、新規事業や鑑賞体験を開発)

### ●設立の背景と経緯

設立の背景として挙げられるのが、アートと美術館を取り巻く社会の変化だ。1990年代以降、グローバル化と各国の経済成長で発信地が拡散し、アジア諸国では美術館の新設や国際展・アートフェアが急増した。日本でも1950～90年代に多数の美術館が建設されたが、基盤整備はここまでで国際的な発信力の低下も懸念された。また、SDGs(持続可能な開発目標) やすべての人間が尊重される包摂性、ダイバーシティなど社会課題が増えるなかで、多様な見方や価値観に出会える現代美術への期待感が世界的に高まった。日本でも、2017年に改正された「文化芸術基本法」において文化芸術そのものの振興のみならず、まちづくりや福祉、教育など幅広い分野と連携した総合的な文化政策の推進が明示された<sup>(\*)2</sup>。

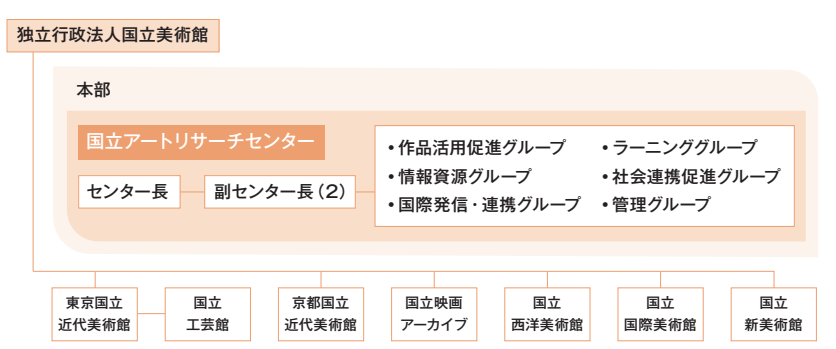
そうしたなかで、2014年に文化庁内で日本の現代美術に関する初めての検討会が開かれ、長期目標として振興支援機関の創設が掲げられた。世界での日本美術の評価向上を目指して18年から5年間実施された「文化庁アートプラットフォーム事業」では、国内美術館の収藏品データベース「全国美術館収藏品サーチ(SHŪZŌ)」の構築に着手し、海外から専門家を招いた国際交流にも取り組む(NCARに事業継承)。

2020年からは文化審議会において有識者による振興策の議論が深められ、翌21年に「アート・コミュニケーションセンター(仮称)」の設置準備室が国立美術館内に開設され、2年の準備期間を経て、名称をNCARとして立ち上がった。

\*1

- 東京国立近代美術館  
1952年開館。国内外の近現代美術作品約1万3000点を所蔵
- 国立西洋美術館  
1959年開館。「松方コレクション」を基礎に約6,000点の西洋美術作品を所蔵
- 京都国立近代美術館  
1963年開館。京都や西日本の美術・工芸に比重を置き約1万2,000点を所蔵
- 国立国際美術館(大阪)  
1977年開館。戦後の国内外の現代美術を中心に約8,000点を所蔵
- 国立新美術館(東京)  
2007年開館。企画展の開催や美術団体に会場提供を行い、自館コレクションはなし
- 国立映画アーカイブ(東京)  
2018年開館。国内外の映画作品、資料の収集保存や研究、展示・上映を実施
- 国立工芸館(金沢)  
2020年開館。東京国立近代美術館の分館。工芸作品を中心に約4,000点を所蔵

### 国立アトリサーチセンター 体制図



## ●NCARの事業内容

NCARではさまざまな事業を展開しているが、ここでは地域の美術館や教育関係者、福祉団体に関わる主な事業を紹介する。

作品活用促進の事業のひとつが、国立美術館のコレクションを活用し、国内美術館と連携して取り組む「国立美術館 コレクション・ダイアログ」「国立美術館 コレクション・プラス」<sup>(\*)3</sup>だ。国立美術館と開催館のコレクションを混ぜたテーマ性がある企画展(ダイアログ)、開催館の所蔵作品に国立美術館所蔵の1～数点を加えた小規模な特集展示(プラス)の企画案をそれぞれ公募し、採択された企画に貸与する作品の輸送費や保険料を国が負担する。国内美術館との関係強化や展示活動の活性化、地域における鑑賞機会の拡充も連携事業の目的となっている。

また、コレクションの保存に関わる最新情報の発信も行っている。2023年10月、米国から一線の修復家を東京に招いた3日間のワークショップに70人、講演会に92人が参加し、化学的なクリーニング理論や実際の絵画修復への適用事例について学んだ<sup>(\*)4</sup>。

作品やアーティストとの出会いによって感性や思考を育むラーニングは、多様な役割が求められる美術館の活動の中で重要性を増している。国立美術館は2006年から毎年夏の2日間、各都道府県の教育委員会から推薦を受けた小中高の教員や学芸員を対象に子どもの鑑賞教育の指導者研修を開催し、美術館での対話型鑑賞や講演、ディスカッションを行ってきた。NCARはこの事業を引き継ぎつつ、23年には新たな取り組みとして特別支援学校の美術館利用についても考える機会を設けた。これまでの18年間に研修を受けた美術関係者は1,700人を超え、各地での美術鑑賞の普及に貢献している。

また、美術館のアクセシビリティを高める事業にも取り組む。一例が、発達障がいがある人向けに作成した国立7館分の美術館案内「Social Story はじめて美術館にいきます。」だ。写真と平易な文章で美術館の過ごし方

をわかりやすく解説し、NCARのウェブサイト(<https://ncar.artmuseums.go.jp/>)から手軽にダウンロードできる。

情報資源の大きな柱が、日本にある近現代作品や美術館に関するデータベースの構築だ。文化庁アートプラットフォーム事業を継承して整備を進めている「全国美術館収蔵品サーチ(SHŪZŌ)」は16万件超(2023年4月現在)の作品情報を収録し、日本の美術家約2,500人の経歴などを掲載した「日本アーティスト事典(ベータ版)」も同年公開した。日本の戦後美術に関する文献の英訳や過去に開催された現代美術展・国内画廊情報の登録や更新も進めている。これらのデータベースや資料を集約した日英バイリンガルのリサーチサイト「アートプラットフォームジャパン」<sup>(\*)5</sup>は誰でもアクセスできる。

そのほか、東京藝術大学と共催したフォーラム<sup>(\*)6</sup>、国際的なネットワークづくりを目的に研究者やキュレーターが海外を視察するNCARスタディ・ツアーを開催。前者は、世界的に注目される「ウェルビーイング」に美術がもたらす好影響について英国の研究者らが事例発表を行い、オンラインを含め25カ国から参加申し込みがあった。日本の美術家が参加するピエンナーレなど国際芸術展の主催団体に対し費用の一部を支援するプログラムも始まり、日本の現代美術の海外での認知度アップを図る<sup>(\*)7</sup>。

※

これまでのNCARの活動を概観すると、美術館や学芸員、専門家が対象のいわば「B to B」事業が主体になっている。世界の美術の最新知見や情報の提供など単館で担い切れない機能を補完し、国内美術館が時代に即した存在へアップデートするサポートを行っていくNCARの役割がうかがえる。

国立美術館にとっても、国内外での「顔が見える」関係の構築によるフィードバックや問題意識の共有が期待でき、各館の課題解決や活動充実につながる可能性がある。海外への発信強化に加え、国内での持続的な現代美術振興への貢献が期待されるNCARの活動を注視していきたい。

\*2 文化芸術基本法(旧「文化芸術振興基本法」、2017年改正)基本理念  
文化芸術に関する施策の推進に当たっては、文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承、発展及び創造に活用することが重要であることに鑑み、文化芸術の固有の意義と価値を尊重しつつ、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策との有機的な連携が図られるよう配慮されなければならない。

\*3 ダイアログは翌々年度、プラスは翌年度の開催館を毎年募集し、次回は4月に詳細を発表する。プレ事業として長崎県美術館で開催された「鴨居玲のスペイン時代」展(2023年4月～6月)では、国立西洋美術館所蔵のパロックの巨匠ジュゼペ・デ・リベラの絵画を地元ゆかりの画家・鴨居玲の作品と併せて展示し、注目された。

\*4 ワークショップは専門家が対象。多様な素材が用いられた近現代作品の保存修復は絶えず新しい知識を取り入れる必要がある。NCARでは講演会を収録したビデオ映像をホームページで公開するなど、広く情報共有。来年度以降も開催予定。

\*5 アートプラットフォームジャパン  
<https://artplatform.go.jp/ja>

\*6 「共創フォーラムVol.1 Art, Health & Wellbeing ミュージアムで幸せになる。英国編」

2023年10月8日、国立新美術館(東京都港区)で開催。ウェルビーイングとアートに関する先進的な取り組みを続けてきた英国の専門家4人が登壇し、約800人が参加(オンライン含む)。

\*7 アーティストの国際発信支援プログラム  
2024年度第1期の募集期間は、23年12月～24年1月(同年3月に審査結果を通知)。日本のアーティストが参加する国外の国際芸術展の主催団体に対し、作家1人につき350万円、複数人が参加する場合は700万円を上限に経費の一部または全額を支援する。

## ▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

### 岐阜県岐阜市

#### サラマンカホール プロデュース・オペラ モーツァルト作曲 『魔笛』



写真提供：サラマンカホール

●サラマンカホール・プロデュース・オペラ モーツァルト作曲『魔笛』  
[制作・主催]サラマンカホール  
[会期]2023年12月8日、9日  
[指揮・編曲]倉知竜也  
[演出・美術]乃村健一

#### ●サラマンカホール

1994年4月に岐阜県が県内初の音楽専用ホールとして岐阜県県民ふれあい会館内に開設。当時の梶原拓知事の「他にないものを」とのリーダーシップにより、県内にアトリエを構えていた世界的オルガン建造家・辻宏が製作したパイプ数2,997本の荘厳なパイプオルガンを備え、世界的照明デザイナー・石井幹子が製作したシャンデリアの輝くサラマンカホールが誕生（ホール名は、辻がスペインのサラマンカ大聖堂のパイプオルガンを修復したこと由来）。2012年からふれあいファシリティズ（ハヤックスとB-DOOコミュニケーションズのJV）がふれあい会館・サラマンカホールの指定管理者として運営し、嘉根礼子さんがホール支配人に就任。以来、活発な活動を展開している。プロデュースオペラは、『アマールと夜の訪問者たち』（2012年）、『不思議の国のアリス』（室内楽版14年、新演出版21年）、『ヘンゼルとグレーテル』（ピアノ版15年）、『魔笛』（短縮版16年、全編版23年）、『森は生きている』（17年）、『セロ弾きのゴーシュ』（18年）、『子どもと魔法』（19年）、『サンドリヨン』（22年）を制作。

岐阜県が1994年に開設し、30周年を目前にしたサラマンカホールでプロデュースオペラ『魔笛』が12月8日、9日に上演された。同ホールは重厚なパイプオルガンを備えた708席のシューボックス型で、2012年にオペラ事業をスタート。今回は19年から同事業でコンビを組んでいる倉知竜也さん（編曲・指揮）、乃村健一さん（演出・美術）により、オルガン、ピアノとシンセサイザーの編成で上演された。

『魔笛』は、王子タミーノと道化役のパパゲーノが悪者ザラストロにさらわれた夜の女王の娘パミーナを救出するため神殿に向かい（実はザラストロは祭司で夜の女王の横暴から匿っていた）、魔法の笛と鈴に助けられながら二人がパミーナとパパゲーノという恋人を得る歌芝居。パイプオルガンを神殿に見立て、手前にキャスト付きの移動壁を設置して出入口をつくり、照明にも凝るなどシューボックス型ホールとは思えない仕込みで魔笛の世界を表現していた。

出演者は総勢約60名（主要3役以外はオーディション）で、ホール専属の少年少女合唱団も参加。歌はドイツ語で字幕付き、セリフは親しみやすい意識の日本語で、笑いを誘いながら筋が理解できる子どもも楽しめる演出になっていた。冒頭の序曲の和音がパイプオルガンで厳かに響き、魔笛のフルートは高音部のパイプで表現。パパゲーノは客席から歌いながら登場し、夜の女王がお馴染みのアリアをバルコニーで熱唱するなど、編曲と演出の妙を感じた舞台だった。

サラマンカホールは12年からふれあいファシリティズが指定管理者となり、音大ピアノ科卒で海外経験が豊富な嘉根礼子さんが支配人に就任。すぐに少年少女合唱団を立ち上げ、「子どものためのオペラ」（19年からプロデュースオペラに名称変更）、0歳からのコンサート、子ども音楽塾、パイプオルガンを楽しむ各種講座、ワンコインで音楽を楽しむシリーズ、朗読と音楽シリーズなどの普及事業に次々と着手。また、地元ゆかりの新進演奏家を起用したオーソドックスなコンサートから日本の古典シリーズまで、県唯一の音楽専用ホールとして幅広い事業を

展開してきた。

嘉根さんは、「ドイツで暮らしていた時に家族でオペラ鑑賞に出かけるドキドキ感を体験した。子どもたちにサラマンカでオペラデビューをしてもらいたいと思って事業を始めた。オペラは音に言葉が乗ることで響きが生まれるので原語で歌うことにはこだわっている。“子どものため”だけではなく“大人”も満足できる作品づくりを目指して名称を変えたが、子どもに聴いてもらいたいという原点は変わっていない。岐阜県には音楽を専門とする大学がないので、ホールが音楽芸術を発信する核となって、若手音楽家の育成を担う責務があると思っている」と振り返る。

今回は4月にオーディション（応募総数81人）し、約3カ月にわたって週3回の稽古をサラマンカホールで実施した。倉知さんは、「ホームグラウンドがあり、最初からホールの響きで創り上げていけるのはとても恵まれている。原曲の楽器を重視してパイプオルガンの個性も考慮しながら現場で試行錯誤して編曲を完成させた。原曲と音色が異なるため歌手も慣れる必要があるが、実際のホールなら細かいニュアンスを体感しながら音をつくれる。また、練習動画を関係者がYouTubeで共有し、パイプオルガンの響きとの交わりを復習できるようにした。ホールで練習できる事を聞き、遠方からもオーディションに来て人材が揃った」と話す。

『魔笛』のチケット代は大人2,000円。他の事業でも低価格を標榜し、大阪フィルハーモニー管弦楽団定期公演の公開リハーサルは無料招待、ピアニストの公開レッスンも無料聴講できる。2019年に愛好家から寄贈された40挺の弦楽器を無償で若い音楽家に貸与するプロジェクトSTROANもスタートした。「祖母に連れられてホールに来場していた子が小学生の時から才能を見せてサラマンカでも弾くようになり、22年に世界的な国際ピアノコンクールで優勝した。演奏に訪れる内外の一流演奏家が録音地に選ぶほど音響の良いホールは私たちの誇り。それを感じ性豊かな子どもたちや市民に伝えていきたい」という嘉根さんやスタッフの真摯な思いがここには満ちていた。（野々山順子）